

日本語教育機関教育活動評価  
自己点検・評価票

日本語教育機関名： 成田ベスト日本語学校

点検・評価実施日： 令和 年 月 日

実施責任者：

実施担当者名(役職)：

点検・評価項目		確認
<b>理念・教育目標</b>		確認
<small>(理念・ミッション)</small> ・日本社会で円滑に生活し、社会に認められ、持続的な関係を築くことができる留学生を育成する。 ・日本社会において自らの夢を実現し成功するとともに日本社会の発展に貢献する人材を育成する。 ・日本国内、千葉県及び成田地域の活性化と共生社会の実現に寄与する。		[ <input type="checkbox"/> ]
<small>(教育目標)</small> 大学・専門学校進学2年課程、大学・専門学校進学1年6か月課程での学習を通して、修了時には高等教育機関への進学をはじめとした自ら希望する進路へ進み活躍するのに必要な「日本語教育の参照枠」B2レベルの日本語力を身につける。		[ <input type="checkbox"/> ]
<small>(育成する人材像)</small> 外国人に対する日本語教育並びに日本文化の教育を行い、総合的なコミュニケーション能力の養成と向上を目指すと共に日本社会や文化・習慣の理解を深め、日本と世界とを繋ぐ懸け橋となる人材の育成を目指す。		[ <input type="checkbox"/> ]
<b>1. 学校運営</b> 点検者：経営担当役員		確認
1.1 認定日本語教育機関認定基準に適合していることを年1回以上確認している。		[ <input type="checkbox"/> ]
1.2 運営の透明性が確保されている。		A B C
1.3 校長、主任教員、専任教員、非常勤教員、事務局統括職員、事務職員の職務内容及び責任と権限を明確に定め、かつ、教職員間で周知されている。		A B C
1.4 管理、運営のための諸規程を整備し、規定に基づいた運営が効果を上げている。		A B C
1.5 予算編成が適切になされ、明確なルールにより執行している。		A B C
1.6 運営に必要な情報が機関内の関係者間で共有されている。		A B C
1.7 機関の短期及び中長期目標が教職員間で周知されている。		A B C
1.8 運営や教育活動に必要な情報を教職員間で共有する仕組みがあり、機能している。		A B C
1.9 運営にあたり法令を遵守している。		A B C
1.10 コンプライアンス意識向上のため担当者を定めて取組を行い、効果が出ている。		A B C
1.11 関係官庁への届出、報告を遅滞なく行っている。		A B C
1.12 個人情報保護のための対策をとっている。		A B C
<b>2. 情報公開</b> 点検者：校長、副校長		評価
2.1 機関の設置者、教育内容、定員、進路等の情報をホームページ等で公開している。		A B C
2.2 募集及び納付金に関する情報を公開している。		A B C
2.3 入学希望者やその関係者に理解できる言語で情報提供を行っている。		A B C
2.4 情報は十分に整理されて公開されており、必要な情報がどこにあるかが分かりやすく示されている。		A B C

2.5 公開されている情報は常に最新のものに更新されている。	A B C
<b>3. 入学者の募集と選考 点検者：校長、副校長</b>	評価
3.1 適切な方法で入学者の募集を行っている。	A B C
3.2 教育内容を含む最新、かつ、正確な学校情報を開示している。これらは想定する入学志願者の理解できる言語で行うよう努めている。	A B C
3.3 教育目標に合致した募集計画を立案し、募集地域や対象者を定めて募集活動を行っている。	A B C
3.4 入学希望者に対して情報提供や入学相談を行っている。	A B C
3.5 海外の募集代理人(エージェント等)に最新かつ正確な情報提供を行っている。	A B C
3.6 海外の募集代理人(エージェント等)の行う募集活動が適切に行われていることを把握している。	A B C
3.7 適切な方法で入学者の選考が行われている。	A B C
3.8 受け入れるコースの教育内容が入学志願者のニーズと合致することを確認している。	A B C
3.9 入学選考基準及び方法が定められ、適切な体制で入学選考を行っている。	A B C
3.10 入学志願者の学習能力、学習意欲、日本語能力等を確認している。	A B C
3.11 入学者の選考に関し、学習能力、勉強意欲、経費支弁能力、日本語能力等について根拠資料で確認する等、適切な方法により確認している。	A B C
3.12 不法残留者を多く発生させている国からの志願者には面接等の調査を行っている。	A B C
<b>4. 納付金 点検者：校長、副校長</b>	評価
4.1 入学検定料、入学金、授業料その他納付金の金額、納付時期、納付方法、及び学費以外に入学後必要な費用を募集要項等に明記している。	A B C
4.2 関係諸法令に基づいた学費返還に関する規定を定め公開している。	A B C
4.3 上記4.1及び4.2については入学志願者、在籍者及びその経費支弁者の理解できる言語で情報公開に努めている。	A B C
<b>5. 教職員 点検者：校長、副校長</b>	評価
5.1 教育力及び支援力強化のための取組を適切に行っている。	A B C
5.2 校長、主任教員、本務等教員及び非常勤教員の職務内容を明確に定め、かつ、教職員間で周知されている。	A B C
5.3 教育目標達成に必要な教職員の能力及び資質を明示している。	A B C
5.4 新任教員、初任教員を対象とし、明示された「必要な能力・資質」を向上させることを目的とした研修を実施している。	A B C
5.5 経験を問わず、所属する教職員を対象に、振り返りの機会を設け、情報の共有や成果の確認を行っている。	A B C
5.6 教職員の教育力及び支援力強化のための研修等を実施するとともに、他機関の実施する研修会等への参加を促している。	A B C
5.7 教職員の自己評価等を含む多方向的な教職員評価を行っている。	A B C
5.8 教職員評価のための体制、方法及び評価の基準を定めて、開示している。	A B C
5.9 上位者からの評価だけでなく、自己評価、相互評価、学生からの評価も含む、多方向的な評価システムが導入されている。	A B C
5.10 評価結果を的確に教員に伝え、それが教員の能力・資質の向上に結び付いている。	A B C
5.11 評価システムを改善していくための検討が常に行われ、実際に改善が行われている。	A B C

6. 教育活動	点検者：校長、副校長	評価
6.1	教育目標に合致した教育活動の計画を作成している。	A B C
6.2	理念・教育目標に合致したコース、教材を設定し、カリキュラムを体系的に編成している。	A B C
6.3	学生の熟達度を、特定の試験の成績だけでなく、「日本語教育の参照枠」の枠組みの中に位置づけて理解する試みを行っている。	A B C
6.4	教育活動を適切に実施するための手立てを講じている。	A B C
6.5	教育活動の計画が教員全体に周知されている。	A B C
6.6	学生の日本語能力を試験等により判定し、適切なクラス編成を行っている。	A B C
6.7	当該学期の学習内容及び学習予定等を学生に開示している。	A B C
6.8	出席簿を備え、正確に記録している。教育活動の振り返りと改善に活かせるような形で授業記録簿を残し、記録内容を関係教員間で共有している。	A B C
6.9	学習成績の判定基準及び方法が定められ開示されている。また判定結果を的確に学生に伝えている。	A B C
6.10	授業を含む教育活動全体の検証を定期的かつ適切に行っている。	A B C
6.11	検証のための体制、方法及び評価の基準を定めている。	A B C
6.12	学生からの評価も含む、多方向的な評価システムが導入されている。	A B C
6.13	「～を実施している」ことの確認だけでなく、「それが実際に効果を上げているか」を、根拠に基づき確認できるような評価システムとなっている。	A B C
6.14	評価結果が教育内容や方法等のプログラム改善、教員の教育能力向上等の取組に反映されている。	A B C
6.15	評価システムを改善していくための検討が常に行われ、実際に改善が行われている。	A B C
6.16	教員の能力、経験等を勘案し、適切な教員配置をしている。	A B C
6.17	授業記録簿等を備え、実施した授業を正確に記録している。	A B C
6.18	理解度、到達度の測定と評価を実施期間中に適切に行い、その結果を的確に学生に伝えている。	A B C
6.19	修了・卒業の判定を適切に行っている。	A B C
6.20	授業評価を含む教育活動の評価を定期的に行っている。	A B C
6.21	教育活動等の改善を継続的に行う仕組みがある。	A B C
7. 学生支援	点検者：校長、副校長	評価
7.1	日本社会を理解し、一構成員として活動するための取組を適切に行っている。	A B C
7.2	留学生活に関するガイダンスを定期的の実施し、その効果を確認している。	A B C
7.3	留学生活に関する生活指導担当者が特定され、周知されている。	A B C
7.4	日本社会、日本文化を理解するための活動を行っている。	A B C
7.5	進路指導を適切に行っている。	A B C

7.6 進路指導担当者が特定されている。	A	B	C
7.7 学生の希望する進路を随時把握し、入学時から一貫した指導をしている。	A	B	C
7.8 進学及び就職に関する資料や情報を収集し、学生に提供している。	A	B	C
7.9 卒業後の進路を把握している。	A	B	C
7.10 卒業生の状況を把握するための取組を行っている。	A	B	C
7.11 進学先、就職先等での状況や卒業生の社会的評価を把握している。	A	B	C
7.12 安全な留学生活を送るための適切な取組をしている。	A	B	C
7.13 健康、衛生面について指導する体制を整えている。	A	B	C
7.14 重篤な疾病や障害、交通事故に遭った場合の対応、及び感染症発生時の措置を定めている。	A	B	C
7.15 火災、地震、台風等の災害発生時の避難方法等を定め、避難訓練を定期的実施している。	A	B	C
7.16 必要な場合は母語等による支援体制を整えることができている。	A	B	C
7.17 入国・在留に関する指導及び支援を適切に行っている。	A	B	C
7.18 入管法上の留意点について学生への伝達、指導を定期的に行っている。	A	B	C
7.19 不法残留者、資格外活動違反者、犯罪関与者を発生させないための取組を継続的に行い、発生を防いでいる。	A	B	C
<b>8. 施設・設備</b> 点検者：校長、副校長	評 価		
8.1 語学学習に適した施設・設備である。	A	B	C
8.2 教室内は十分な照度があり換気がなされているとともに、必要な遮音性が保たれている。	A	B	C
8.3 視聴覚教材やICTを活用した授業が可能な教育用機器及び設備が備わっている。	A	B	C
8.4 授業時間外に自習できるスペースおよびリソースを提供している。	A	B	C
8.5 学生及び教職員の安全を考慮し、適切な対処を行っている。	A	B	C
8.6 法令上必要な設備等を備えている。	A	B	C
8.7 廊下、階段等は緊急時に危険のない形状である。	A	B	C
8.8 バリアフリー対策を施している。	A	B	C
<b>9. 地域貢献・社会貢献</b> 点検者：校長、副校長	評 価		
9.1 日本語教育機関の資源・施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っている。	A	B	C
9.2 学生のボランティア活動を奨励、支援している。	A	B	C
9.3 地域のイベントに参加している。	A	B	C
9.4 地域における日本語教育等を積極的に行っている。	A	B	C

10. 財務 点検者：経営担当役員	評 価
10.1 日本語教育を継続的に行うために適切な財務状況である。	A B C
10.2 財務状況は、中長期的に安定している。	A B C
10.3 予算・収支計画の有効性及び妥当性が保たれている。	A B C
10.4 入学者の募集や入学手続の支援等を行う者に対して支払った仲介手数料等は適正である。	A B C
10.5 適正な会計監査が実施されている。	A B C
全体のまとめ	

評価方法

- ・A：「達成されている」あるいは「適合している」項目。
- ・B：「一部未達成」であるが、1年を目途に達成あるいは適合が確実な項目。
- ・C：「未達成」あるいは「適合していない」項目。